

インド通信

2024年4月

玉東町グローバル卒業生

澤村啓之

インド通信第2号です。

先日、学校の女性スタッフの結婚披露宴に招待され出席してきましたので、今回はその報告です。日本の披露宴とはかなりスタイルが違いびっくりすることばかりでした。

まず、スピーチなんてありません。ひな壇に新郎新婦が立っていてグループごとに順番にお祝いの言葉をかけにひな壇に上がっていきます。これが夕方6時から11時ごろまで続くというのですから新郎新婦は大変です。

私は新郎新婦へのお祝いのギフトに日本から持参した扇子を持って行きました。扇子は末広がりの意味があって幸せがますます広がるという意味でとても縁起がいいんだ、という説明をして渡したらとても喜んでくれました。

お祝いの言葉をかけ終わったら、そのグループで新郎新婦と一緒に集合写真を撮ります。プロのカメラマンが撮るのとそれぞれが携帯電話で撮るのとで短時間で大忙しです。

それが終わるとグループごとに食事会場に移動します。席に着くとバナナの葉っぱがお皿代わりに準備されます。そうです。南インドの食事ミールスです。

葉っぱの上には次々に色々なおかずが載せられていきます。お腹いっぱいでもこれでおしまいだろうと思っても次から次へと新しいおかずが運ばれてきます。とってもおいしかったのですが量が多すぎて食べきれませんでした。

食べ終わるころにはお持ち帰りの品としてココナツとバナナがテーブルの上に置かれました。各自これを抱えて食事会場から出ていきます。

これでおしまいです。グループごとに披露宴会場を後にします。出席者全員が着席しスピーチが次々とあり、みんなで揃って食事をして新郎新婦も両親も挨拶する日本の披露宴とはえらい違いです。出席グループごとの流れ作業みたいですが出席者が何百人規模だというのですから仕方ないのかもしれませんが。

びっくりの連続でしたが、インドの伝統文化に触れることが出来た素敵な体験でした。



結婚祝いに日本の扇子



新郎新婦と集合写真



南インドのミールス